沈黙する「体育嫌い」の声を聴く

セクシュアリティの視点から

はじめに

あなたの周りにはレズビアンやゲイ，性自認が生まれた時に割り当てられた性別と異なるトランスジェンダーなど，「規範的でない性」(*1) を生きる人がいますか？いない？聞いたことがない？それは，言えない雰囲気がある，見えないだけではありませんか？
目指すべき社会の方向として，「多様性（Diversity）」が重要なキーワードとなっています．「多様性」とは，単にマイノリティの存在に気づき認めるということにとどまらず，そもそも一人一人が違う，つまりみんなが多様な個人なのだという意味を含みます．個人は，性別や性的指向，性自認 (*2)，肌の色，年齢，経済状況，障害のあるなしなど，様々な属性が交差する存在です．しかし，私たちが生きる社会は，マジョリティ中心の制度や考え方が支配的であり，マイノリティの存在や声が弱められている状況にあります．
特に，学校体育では，女・男で二分したり，男らしさを強調することも多く，規範的でない性の人が生きづらさを感じやすい構造があります．誰も置き去りにしない学校体育のあり方について，セクシュアリティの視点から考えてみましょう．

1 教育行政や学校での対応の遅さ

文部科学省は，2015 年に「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」を通知し，服装や名簿，運動部活動については自認する性別での対応を認めるとしましたが，性的指向については相談体制の充実について触れただけでした．この通知の背景には，「自殺念慮の割合等が高いことが指摘されている性的マイノリティについて，無理解や偏見等がその背景にある社会的要因の一つであると捉えて，教職員の理解を促進する．」（自殺総合対策大綱，2012）というねらいがありました．
同時期に，ヒューマン・ライツ・ウォッチ（HRW）による報告書「出る杭は打たれる」（2016）が公表され，LGBT の子どもたちについての国の対策が不十分で，このため学校でのいじめから保護できていないことが指摘されました．その後，2017 年に「いじめ防止対策推進法」（2013）に基づく「いじめ防止基本方針」が改定され，学校として特に配慮が必要な対象として，ようやく「性同一性障害や性的指向・性自認に係る児童生徒」についての対応が明記されました．

2 体育とセクシュアリティ

学校は性別二元制 (*3) が強固で，女・男というカテゴリーが多く使用されます．特に，体育授業や運動部活動，体育行事では，男女別で行われ，更衣室などの施設面や服装でも男女別に設定されることが一般的です．また，性の規範が強固で，体育・保健体育の学習指導要領には，今なお「思春期になると・・・異性への関心が芽生える．」（小学校 3・4 年生），「身体の機能の成熟とともに異性への関心が高まったりする」（中学校）との記述が見られます．体育・保健体育では，シスジェンダー (*4) や異性愛を規範とする文化が根強いと言えるでしょう．このような学校体育の場で，規範的でない性を生きる人々が困難に直面していることは明らかですが，具体的にどのような経験をし，どのような感情を抱き，どのような解決策を求めているのでしょうか．

3 PEGP（Physical Education & Gender Politics）研究プロジェクトについて

本プロジェクトでは，「体育嫌い」をジェンダー・セクシュアリティの視点から検討することを目的に，主に大学 1 年生を対象とした質問紙調査や「体育嫌い」の当事者へのフォーカス・グループ・インタビュー（FGI）を実施してきました．この成果を関心のある皆さまに知っていただくために，2 種類のリーフレットを作成しています．

＊「沈黙する『体育嫌い』の声を聴くジェンダー視点を中心に」
＊「沈黙する『体育嫌い』の声を聴くセクシュアリティの視点から」（本リーフレット）
https://sites.google.com/view/pegp/

用語について

*1 一般的には LGBT（レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー）や Q（クィア）を含めた LGBTQ という用語が使われることが多いですが，本研究では，セクシュアリティの規範性（基準とすること）に問題意識を持ち，多様なセクシュアリティ全体を指して「規範的でない性」と表現しています．
*2 「性自認」は，Gender identity の日本語訳で，「性同一性」「ジェンダー・アイデンティティ」と同義です．ここでは調査内容などとの統一性を図るため「性自認」としています．
*3 性別二元制とは，出生時にすべての人を男女どちらかの性に分け，その性別に従って性的指向，性役割，ジェンダー表現などの性規範を構成する社会システムを指します．
*4 シスジェンダー（Cisgender）とは，性自認と生まれたときに割り当てられた性別が一致している人を指します．

体育・スポーツとセクシュアリティを考えるために

課題

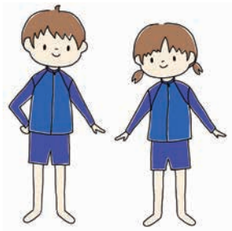
学校体育では，規範的でない性を生きる人々が生きづらさを感じ，「体育嫌い」となる傾向が見て取れます．本研究で見出された課題として次の諸点を示すことができます．

・体育カリキュラムが作り出す空間は，人々に性別二元制や異性愛，シスジェンダーを教育し，規範化する
・学校体育全体の制度とともにジェンダー・セクシュアリティの規範的な文化に対する批判的視点が不可欠
・セクシュアリティは多様であり，ニーズにも個人差があるため，当事者を含めた幅広い学校体育の再検討が必要
・「出生時に割り当てられた性別」に基づいた性別二元制が与える「安全・安心」とは，規範的でない性が沈黙することで成立している「安全な空間」にすぎない

日本社会では，多様なセクシュアリティの存在が人々に意識されるようになってまだ日が浅いのが現実です．多くの当事者が生きづらさを感じながら沈黙しています．新しい取り組みや問題点をコラムとして紹介しますので，体育・スポーツの改善への手掛かりとして下さい．

コラム 1 ジェンダーレス水着の導入

水泳用品などのメーカー「フットマーク」が男女兼用，長袖の上着とハーフパンツに分かれた「男女共用セパレート水着」を開発しました．紫外線対策にも有効で，かつ，体のラインが出にくいデザインで，幅広いニーズに応える水着だとして，採用する学校が増えているそうです．
<出典>フットマーク HP「ジェンダーレス対応スクール水着　男女共用セパレート水着」
(https://www.footmark.co.jp/magazine/magazine-1211954/)



コラム 2 中学校学習指導要領では「男女共習」が推奨

現行の中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説保健体育編では，「体力や技能の程度及び性別の違い等にかかわらず，仲間とともに学ぶ体験は，生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けた重要な学習の機会であることから，原則として男女共習で学習を行うことが求められる．」（「指導計画の作成と内容の取扱い」，p.238）と記述されています．制度としてのカリキュラムと実際に実践されるカリキュラムの間にはかなりの隔たりのあることがわかります．

コラム 3 新たな更衣室の取り組み

男女別の更衣室がしばしば運動施設へのアクセスやスポーツ参加の障壁となることが明らかになっています．カナダのトロント大学では，2018 年に，男女別更衣室以外に誰でも個室で使える「ファミリー更衣室」を設けたり，規範的でない性を生きる人の声を体育館や更衣室の壁に書いて可視化するなど，更衣室のあり方を変えていこうという The Change Room プロジェクトが行われました．写真はプロジェクトの様子を掲載したもので，更衣室入口の壁には，「更衣室はいつも居心地が悪く，友達と一緒でない限り中に入らないようにしている」という趣旨のトランス男性のことばが描かれています．
<出典>トロント大学 HP
(https://thevarsity.ca/2018/01/14/inclusivity-in-sports-the-change-room-project/)

コラム 4 トランスジェンダーの人のスポーツ参加

東京 2020 大会で五輪史上初めてトランスジェンダー女性が女子競技に出場したことが話題になりました．祝福する声が多く聞かれた一方で，他の（シスジェンダー）女子選手に対してフェアでない，男子選手が自分は女だと偽るかもしれないと不安をあおる声も聞かれました．しかし現実には，圧倒的多数のトランスジェンダーの人々は，スポーツで勝つことはおろか，まず参加することに大きな困難を抱えています．それは体育やスポーツの場が厳しく男女に分けられ，トランスジェンダーを想定した制度・施設作りになっていないからです．世界で数人しかいないトランスのエリート選手ではなく，どこの学校にもいるかもしれないトランスジェンダーの子どもたちや，ただ安心して体を動かしたい私達の回りのトランスの人たちの現実に，まず目を向けてみませんか．

さらに学びたい人に役立つ参考資料や文献は，次の HP「体育・スポーツのジェンダー・セクシュアリティのポリティクス：『誰も置き去りにしない体育』をめざして」にまとめています．ご活用ください．
https://sites.google.com/view/pegp/

本研究は JSPS 科研費（課題番号 :19K11596）の助成を受けて実施しました．
研究課題：「包摂的な体育カリキュラムの構築に向けて：クイア・ペダゴジー及びリテラシーを中心に」R1-R3 年度，井谷惠子・井谷聡子・関めぐみ・三上純
連絡先：研究代表者　井谷惠子　itani#kyokyo-u.ac.jp　（# を @ に変えてご利用ください）
リーフレット発行年：2022 年 11 月

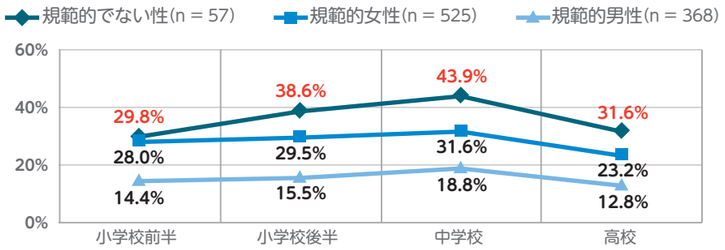
1. 質問紙調査の結果から

＜調査概要＞
期間：2017 年 4 月中旬から 5 月上旬.
対象：近畿地域の 3 つの大学に在籍する初年次学生 979 名.
セクシュアリティ：「1 戸籍上の性・2 性自認・3 性的指向」の回答を求め,「1 女・2 女・3 男」であれば「規範的女性」,「1 男・2 男・3 女」であれば「規範的男性」, それ以外の回答であれば「規範的でない性」としてカテゴリーを行った.

⑴ 学校段階別にみた「体育嫌い」割合の推移

体育の好き嫌いについて学校段階ごとに質問した結果,「小学校前半」から「高校」までの授業が「嫌い」「どちらかといえば嫌い」と回答した人の割合は,「規範的男性」が有意に低く,「規範的女性」及び「規範的でない性」が有意に高かった.

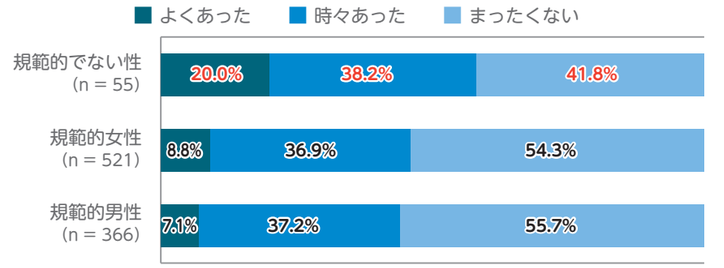
「今まで受けてきた体育の授業は好きでしたか？」
※数値は「嫌い」「どちらかといえば嫌い」の合計



⑵ 体育授業での嫌な経験の頻度

体育で嫌な経験が「よくあった」と回答した人の割合は,「規範的男性」「規範的女性」と比べて「規範的でない性」が有意に高かった.

「あなたは体育の授業で嫌な経験をしたことがありますか？」



⑶ 体育授業での嫌な経験の内容

体育で嫌な経験が「よくあった」「時々あった」と回答した人に対して,「いつ, どんな場であったかなど, 具体的に書いてください」という自由記述欄を設けたところ, 410 名（全体の 41.9%）から回答があった. そのうち, セクシュアリティに関する困難さが表れている 2 つの記述を紹介する.

① 性的指向に基づく困難
ゲイ男性 「同性間でゲイであることを理由にいじめられていたので, 体育の時ペアで体操をするときなどは苦痛でした」

② 性自認に基づく困難
トランスジェンダー女性 「男だからスポーツが得意, 力が強くないといけないという感じで全く体を動かせなかったので色々言われることはあった」

考えてみましょう
2 人の当時の状況を想像できますか？これらの記述は情報量が少ないため, さまざまな解釈に開かれています. また, セクシュアリティにかかわらず誰もが経験する可能性のあることと, 特に規範的でない性を生きる人が経験しやすいことは何でしょうか？

2. FGI で明らかになった「体育嫌い」の声

「体育の嫌な経験」についての FGI 調査に協力してくれた 15 名のうち,「規範的でない性」5 名の声
協力者の性自認や性的指向については協力者本人の語りによる

【ノンバイナリーの声】

ノンバイナリーとは「女・男」といった二元的な性のどちらか一方にとらわれない性自認を指します.

A さん（経験した体育：女子, 性自認：X ジェンダー（*5）, 性的指向：パンセクシュアル（*6））
B さん（経験した体育：女子, 性自認：クエスチョニング（*7）, 性的指向：恋愛対象男・性的対象女）
C さん（経験した体育：女子, 性自認：X ジェンダー, 性的指向：アロマンティック（*8）・アセクシュアル（*9））

■「女子」としての体育
声 1：男女で分けてダンスするんで, 女子のダンスは女性的なほうに, セクシーとかかわいいとかなって, 自分は女性を装うというのがすごい拒否感がある人間なんで…スカート履かされるのも, 嫌じゃボケってなって…（男女）どちらでもない私が女性側に入れさせられて, その上で区別された男性と組まされる…納得いかないが積み重なった.

■体型があらわになる服装
声 2：中学時代は体型が徐々に女性らしくなることに嫌悪感があり, 体型がわかりやすい体操服を着るのが嫌で, 秋, 冬は運動して暑くなっても, 体型を隠せる上着を脱がないようにしていました.
声 3：水着を着たら女性って明らかに分かるっていうのがあんまり納得いってなかった…体型が隠れるんではなく, 体型が丸々出るタイプ（の水着）だったんで, 結構きつかった.

■緊張感のある更衣室
声 4：性自認もだんだん分かってきた時に着替えるっていうのが, 相手にも申し訳ないし, 自分でも嫌だなって…精いっぱいてるてる坊主して, 自分が見せないように, 見ないようにしてれば大丈夫だったかなっていう, そんなイメージがあります.
声 5：（女性を）性的対象として見てしまうので, やっぱり同じ着替え場所に放り込まれた時にちょっといろいろ問題あるかなというのはあって・・・自分が黙っていれば, 周りも別に何とも思うこともなく着替えて, 一緒の空間で着替えるわけではあるんですけど.

■いないことにされる疎外感
声 6：保健体育の授業を見ていても, やっぱり異性愛主義というか, LGBTQ だったり, セクシュアルマイノリティに関する授業っていうのは一切なくて…カリキュラム自体にも, 異性愛であることが前提として作られていて, セクシュアルマイノリティってものはいない前提で, 話が進んでるなっていうのは実感しました.

要望：個別対応
マイノリティだからって, マニュアルでこうなってるからこういう対処すりゃいいんだみたいなふうになってしまうのではなくて, やっぱりその子たちそれぞれにそれこそいろいろな違いがある, レインボーなので, 七色なのでっていうのを念頭に置いて, 学校側には対処してもらえるようになればいいかな.（B さん）

【トランスジェンダー女性の声】

D さん（経験した体育：男子, 性自認：MTF（*10）, 性的指向：レズビアン）

■「男子」としての体育
声 7：小学校高学年以降は男女別で種目やチーム分けが行われ, 自らの性別を認識するのが苦痛だった. 女子チームが羨ましく, 入りたかった. 社会的に男子でスポーツができないことで馬鹿にされたり, 性自認と一致していないことによる二重の不快感・嫌悪感があった.

■プールサイドで更衣させられた
声 8：着替える場所っていうのが, プールサイドなんですよ…（男の子は身体を）見られていいんだという価値観, 価値規範が再生産されちゃうんじゃないかなと私は思っていて, だからそういう意味でも, ちゃんと着替える場所っていうのは造ったほうがいいですよっていうか, 造らないといけないと私は思うんですね.

要望：ガイドライン
望む性別での授業への参加や衣服の着用, 個別での着替え場所に対応するといったガイドラインを予め学校側が周知しておくことが, 当事者の安心に繋がる.（D さん）

【レズビアンの声】

E さん（経験した体育：女子, 性自認：シスジェンダー, 性的指向：レズビアン）

■「女子」としての体育
声 9：男性の体育の先生が…（女子は）将来子ども産むことがあるから股関節とか体の柔軟性高めておくのは大事だみたいな声かけをしてて…高校生の時は既に自分がレズビアンっていうことを自認してたので…ああ子どもを産むっていう想定が, 自分にも降りかかってきたなっていうのが, なんかストレスとしてありました.

■異性愛者たちの会話
声 10：高校の体育祭とかでクラスとかの女子が男子の競技を応援してる時に, あの上級生の何とか先輩かっこいいみたいな会話を横目で見てました…直接その会話に巻き込まれるっていうことはなかったんですけど, もし仮にそういう話題を自分に振られたら, すごく, 何ていうんだろう, 切りかわすのに困ってただろうなっていうふうに, 今では思います.

要望：教員養成側の意識改革
（教員養成大学にいる友人が）大学の先生たちもがちがちに古い意識を持って, 体育の授業の指導方法とか教えるから, フォークダンスとかのやり方, 教えてもらった時も男女ペアになって, あんまり恋愛のことみたいな, 意識するなみたいな言われたらしく…そういうところからも意識改革じゃないですけど, 変えていく必要があるのかな.（E さん）

考えてみましょう
規範的でない性を生きる人が安心して体育を受けられるようにするためには, どのような変化が必要でしょうか？

用語について

セクシュアリティの種類は多様で LGBT だけではありません. 本リーフレットで記載されているセクシュアリティについてのみ, 簡単に説明します. 参考文献は, 井谷ほか（2016）, 風間ほか（2018）, マーデル（2017）です. 詳細は本研究プロジェクトの HP をご覧ください.

*5 X ジェンダー：生まれたときに割り当てられた性別と性自認が一致せず, 性自認が男性にも女性にも属さない人, または状態
*6 パンセクシュアル：男女の 2 カテゴリーだけでなく, その他の幅広い性自認, ジェンダー表現を持つ人に魅力を感じる人, または状態
*7 クエスチョニング：自身が性的マイノリティ, ジェンダー・マイノリティかもしれないと感じている人. 自分に適した性的指向, 性自認, ジェンダー表現を形成途中の人, またはそれらの状態
*8 アロマンティック：他人に対して恋愛対象としての魅力をほとんど, もしくはまったく感じない人, または状態
*9 アセクシュアル：他人に対して性的魅力をほとんど, もしくはまったく感じない人, または状態
*10 MTF（Male to Female）：トランスジェンダーのうち, 生まれた時に割り当てられた性別が男性で, 性自認が女性の人